

「本物の中国を見て」

1-A 愛知大学 青井咲薫

9月2日から9日までの1週間、中国訪問を経て、私は中国の大きさの規模の違いに驚きを感じた。まず私が今回この訪中国に参加したきっかけとして、大学で中国語また中国の文化や経済などを勉強しているなかで、必ず大学在学中に中国へ訪問してみたいという想いがあったからである。

まず、私は中国の先進的な技術に驚かされた。スマートフォン一台で予約から注文、決済まで完結できるシステムは、日本でも普及しているが、中国ではその普及率が圧倒的であると感じた。例えば、食事を注文する際には、配達、決済まで全てスマホ一台で行う。また、博物館などに入る際も紙のチケットではなく全てQRコードを用いる。飛行機に乗る際もパスポートにチケット情報が紐づいており、チケットが必要ないということにはとても驚いた。聞いた話によると、若者たちは財布などは持たずスマートフォンとモバイルバッテリーのみを持ち歩き、生活を送っていることから、日常生活の利便性が非常に高いと感じた。このような技術の進化は、中国が急速に発展している理由の一端を示しており、現地の人々の生活を一層便利で効率的なものにしていると実感した。

また、都市部の人混みや国土の広さにも驚きを覚えた。北京や上海などの大都市では、膨大な数の自動車やバイクが目に入り、その規模感に圧倒された。朝や夕方だけでなく、日中そして夜中まで渋滞しており、やはり自動車の台数の多さが圧倒的であると感じた。上海におけるガイドさんの話では、上海のナンバープレートは世界一高価なものであり、オークション方式で販売されている。8月の倍率は4%ほどで、平均額は10万元、日本円で200万円であり、車を購入するよりナンバープレートを購入する方が高価ではないのかも感じた。また、電気自動車とガソリン車ではナンバーの色が異なり、入手難易度も電気自動車のナンバープレートの方が低いことから国として電気自動車を積極的に用いるようにしているという戦略が見られた。中国での大学訪問やレセプションでの現地学生との交流では、意外とシャイな学生が多いと感じた。私のイメージでは中国の方は声が大きく、思ったことは口にする、そんなイメージだった。しかし、実際に会話してみると自ら話しかけてくれることはほとんどなく、私自身から話しかけることで緊張がほぐれ、次第にさまざまなことを話してくれるといったようなイメージであった。また日本に関心を持っている方がとても多いと感じた。日本語学科の方はもちろん何かに関心があって日本語を学習してくれているが、違う学科の方であっても日本のアニメや漫画に興味がある方が多くいて中国には日本の魅力が伝えられていると感じた。一方で、日本では中国に関心を持つ方がまだまだ少ないと感じる。なので私は中国の歴史や建造物、料理、言語などの様々な良さを日本に伝えていきたいと強く感じた。

最後に私は1週間の中国訪問を通じて、技術の進化や国土の広さ、人々との交流を通じて得た

多くの気づきがあった。日中友好関係を向上させるためには、互いの文化や価値観を理解し合う努力を惜しまないこと、そして学生に限らず日中両国の交流をさらに促進することが必要であると感じた。私は今回の訪中団の活動で感じた、考えたことを広め、中国の良さを伝えることで、日中友好の架け橋になりたいと考えている。

「訪中を経て学んだこと」

1-A 皇學館大学 梅村 元香

私は普段、日本近現代史を勉強しています。その中で日清戦争や満州国建国などの事象からわかるよう日本は中国大陸を欲する歴史をたどってきました。近現代の日本が欲した中国という土地について自身の目で確認したいという思いから、今回の訪中団に参加しました。現代中国のイメージは日本メディアが発信するものを鵜呑みにしていたため、漠然とした悪印象があり、出発前は家族や友人から中国へ行くことを心配されていました。しかし、事前研修会で中国の方々は優しいという話をお聞きし、半信半疑でありながらも実際にイメージが変わるか確かめるといった目的も生まれました。この感想文では、実際に訪中し、私自身が五感で得たものを記していきたいと思います。

まず、広さに圧倒されました。どの都市間も1時間を超えるフライト、門からバスで10分ほどかかった西華大学のキャンパス、登っても登っても先に階段の見える万里の長城、ビルが連なりつつも広がりが見える市街地。そのすべてが大陸であるが故の広さを表していました。

次に、高さに圧倒されました。見上げても霧に包まれて上層部が見えなかった上海センタービル、黄浦江クルーズ船上で見学をした東方明珠電視塔は物理的に高さを体感しました。これほどまでの高さを誇るものが30年余で建設されているということは、近年の技術的進歩の高さを物語っていると感じました。また、途中訪問した上海博物館や三星堆博物館への中国人客が多かったことから、自国のことへの興味関心の高さも窺えました。

次に、深さに圧倒されました。前述したような博物館での紀元前からの展示品、伝統文化体験での伝統性を重んじた茶道や、故宮博物院の建築物は中国が紡いできた4000年の歴史の深さを視認する経験になりました。また、故宮博物院の門の看板には漢字と満州文字の両方が書かれており、日本では感じる事ができない複数民族が共存する様を実感することができました。

最後に暖かさに圧倒されました。訪中前のイメージでは、早口でまくしたてたり、順番を守る人が少なかったりと考えていましたが、実際はそのようなことはありませんでした。聞き取れず困っていると少しゆっくり話して下さる方や、身振り手振りを使って伝えようとして下さる方など、優しい方が大半でした。また、日中の大学生交流の場では、中国人学生の日本愛が大いに伝わり、暖かさに包まれました。

この訪中団で過ごした7日間は、自分にとって大変濃い経験となりました。実際に訪れたことで、多くの人口に広大な大地、優しい人々と近現代の日本が欲しがるといった要因が分かったような気がします。悪印象だったイメージもそれが中国人全体でなく、一部の中国人の行

動だと理解でき、訪中後にインターネットで批判的な意見を見てもそれをすべて鵜呑みにせず、自身の頭で考えるようになりました。自身の言語能力の乏しさも痛感したため、向上させてから、また中国に訪問したいと思います。最後にはなりますが、このような機会をいただいた訪中団関係者の方々に感謝をいたします。ありがとうございました。

「訪中を経て学んだこと」

## 1-A 青山学院大学 粉川真帆

私は今回、中国の主要都市3つを巡り、中国の歴史や文化に存分に触れる一週間を過ごすことができました。

中国で初めて訪れた都市、上海は私の想像を遥かに超えた都市でした。経済発展が目覚ましく、観光でも人気の都市であることは知っていたが、上海の高層ビル群や世界的大企業が立ち並ぶ姿、街の隅々まで開発された姿を見て、中国の発展を支える世界を代表する国際都市であることを実感しました。中でも、超高層ビル「上海中心」や外灘の夜景といった日本では見たことのない規模の景色に圧倒され、初日にして経済大国中国の凄さを実感しました。また、バスの中でガイドの方が説明されていた「上海ナンバープレート」の政策もとても興味深いと感じました。日本では誰もが車のナンバープレートを取得することができますが、上海では環境対策や渋滞対策のためナンバープレートの発行がコントロールされており、電気自動車などの新エネルギー車は取得が優遇されています。現代では世界的にEV開発や推進がなされていますが、日本は個人的に遅れをとっていると感じていました。しかし、隣国中国を見ると、走っている車は新エネルギー車も多く、既に具体的な政策が実行されていることにとても驚きました。

二つ目に訪れた都市である成都是、私が兼ねてから訪れてみたい都市の一つでした。成都是紀元前4世紀に蜀の首都として栄えた都市で、絶滅危惧種のパンダの故郷であり、四川料理も有名で、日本人にも馴染みの深い場所だと思います。成都では、まず初めに成都ジャイアントパンダ繁育研究基地を見学しましたが、日本では飼育数が限られているパンダが、自然な環境でたくさん飼育されておりとても驚きました。成都で印象的だったのは西華大学との交流です。私は中国語を流暢に話すことができないため、学生の方との交流がうまくいくか少し不安でしたが、翻訳機や知っている単語を使って積極的にコミュニケーションをとったり、日本や中国の有名な曲を歌ったりと、言語の壁を感じない真の交流ができたのではないかと思います。

三つ目に訪れた北京では、万里の長城や故宮博物院の紫禁城など、中国の歴史上重要な場所を訪れ、とても感動しました。中国ならではの広大さや人の多さも、実際に訪れたからこそ肌で感じることができました。各都市で異なる食文化や美しい街並み、中国の方との交流を通じて、中国に対するイメージはさらに良くなり、自分の目でみて体験する大切さを再確認しました。

中国で過ごした一週間は私にとって大きな財産となりました。私は班長として1-Aのメンバーと過ごすことができ本当に良かったと思います。バスの中や食事の時間、ホテル内など、たわいもない会話やダンスと歌のパフォーマンスの練習など、日々の共同生活を通じて本音で話せる友人できたことがとても嬉しかったです。この訪中を無事に終えることができたのは、班のメンバーの支えと絆があったからであり、中国という地で、同じ大学生の仲

間と過ごした経験が私の人生に大きく影響を与え、成長させてくれたと実感しています。  
最後に、日中友好協会をはじめとした訪中に関わってくださったすべての方々に、感謝申し上げます。この訪中で得た経験を今後の人生に活かし、日中友好のために努力いたします。本当にありがとうございました。

## 「偏見だった中国」

### 1-A 北陸大学 坂井里江

今回の日中友好大学生訪中団に参加して、私の中の「中国」のイメージが大きく変わり、知識と実践を結びつける経験をすることで学習が価値あるものになったと感じる。

大学では中国語だけでなく、専門ゼミナールで中国の文化や歴史について学んでいる。そのため、中国の文化背景についてある程度理解しているつもりだったが、心の奥底では中国人は怒りっぽくて怖い人が多く、中国は汚いというイメージを抱いたままであった。訪中前には中国という環境で一週間も過ごすことはできるのか、楽しい気持ちと不安な気持ちが入り混じっていた。しかし、実際に自分の目で中国を見るとそのイメージは大きく覆された。最初に訪れた上海では、世界一高い展望台とされる上海センタービルを見学し、118 階まで上るエレベーターはすごいスピードで 30 階を超えると、まるで飛行機に乗っているような気圧の変化を体験することができた。夜には、黄浦江クルーズ船で上海の夜景を一望し、建物がとても煌びやかで、輝きの元がすべて日本ではあまり見ることのない大きな建物からだと考えると「中国」という国は日本と比べ物にならないくらい大きな国で、そのような国に自分は来ることができたのだと実感した。

二日目に訪れた上海博物館では青銅器や玉器などを見学する中で、大学で学んだ古代トーテム崇拝について自分の目で見るることができた。トーテムである「火」、「鳥」、「竜」は青銅器が作られた最初から使われていて、昔から密接に関わっていることがわかった。また、古代中国では「竜」は水を使うもの（水瓶など）に多く使われて、実際に水辺の神様として市民の間で崇められていたことがわかった。トーテム文字で使われていた動物は文字だけでなく、飾りなどでも使われていることも知れて、トーテムは人々の生活に深く関わっていることがわかった。さらに、三日目に訪れた成都の三星堆博物館でも動物が使われていて中国全体でトーテムが深く関わっていることがわかった。博物館で古代中国の生活について理解を深めることができ、学習が価値あるものになったと感じる。

訪中前は、中国人は怒りっぽくて怖い人が多く、空気やトイレなど汚いという偏見があった。しかし、実際に自分の目で中国を見ると、空気が汚いということもなく、日本よりも過ごしやすい環境であった。トイレはホテルやレストランなどきちんと清掃の行き届いている場所であったため、私が想像していたほど汚れていなくて驚いた。また、中国人はとてもやさしい人が多く、怒りっぽくて怖い人というイメージは声の大きさと勝手に思い描いていただけだと感じた。自由時間に訪れたお店の店員さんは、私たちが外国人であるため一生懸命英語で話してくれて、中国限定の袋を多めに入れてくれたり、トイレトペーパーの交換待ちをしていると多めに紙を取ってくれたり、どんな料理か一度聞くとその後料理を持ってくると同時にどんな料理かを教えてくれたり、たくさん中国人のやさしさに触れることができた。今回の訪中団を通して、私の中の「中国」のイメージがプラスになり、より中国語や中国文化について学んでいきたいと思った。実際に中国に行かなければ出会えなかった縁、見られ

なかった景色、知れなかった事実、そのような経験をさせていただける機会を用意して下さった日中友好協会や中国政府など、たくさんの方々のおかげで忘れられない濃い思い出になった。今回の経験を訪中前の私と同じように「中国」に良いイメージを持っていない人たちに伝えるだけでなく、両国の若者同士の交流がこれからの日中友好のさらなる発展になると考える。



## 「中国で過ごした七日間」

### 1-A 東北学院大学 佐藤滉太

この訪中では、初めて見る食べたことの無い沢山の美味しい料理を食べ、中国の伝統的な文化物や美しく歴史ある建築物、ユニークな高層ビルの街並み、整備された豊かな木々や花々をこの目で見て感じ、中国の大学生と様々な交流をしました。そしてそこから得た知見や感想をたくさんの班員と共有し合い、それぞれがこれまで中国に対して抱いていたイメージをお互いに考え直して新たなイメージを形成していく過程がとてもおもしろく、かけがえのない、特別な経験をする事が出来ました。

私が訪中前に中国に対して抱いていたイメージはどちらかと言うとあまり良いイメージではありませんでした。それは、普段 SNS やニュース番組などで良い面よりもあまり良くない面を見る機会が多く、そのイメージがすり込まれていたためです。しかし、留学生の中国人の友人や中国人の先生などといった身近にいる中国の方の親切で飾らない素直な人柄と、世界に衝撃を与える技術を生み出す中国の IT 産業のすごさ、自然が生み出した絶景や歴史的な建築物の美しさなどといった面で、とても良い印象も持っていました。

そんな思いの中今回中国を訪問し、私の中国に対するイメージは、とても良いイメージになりました。なぜなら、日本でよく報道されるような事故や事件、衛生管理の不徹底による体調不良などの悪い状況に遭遇することも無く、1週間、非常に良い経験のみを享受出来たからです。具体的には、上海の外灘のライトアップされたビル街の美しさ、高速道路脇に綺麗に並べられたピンク色の花々、道路脇に綺麗に植えられた美しい木々など、ビル街でありながらも自然豊かな都市デザインにとっても良い印象を抱きました。さらに豪勢な美味しい料理を堪能し、研究努力の結晶であるパンダ繁殖研究所の可愛いパンダ、壮大で奥深い歴史を感じる紫禁城や様々な不思議な形の青銅器が展示された三星堆の博物館などを見学し、中国の素晴らしさを実感しました。

さらに西華大学と中国伝媒大学との交流では皆さんが優しく親切にしてくださり、素直な人柄に沢山癒やされ、とても楽しい時間を過ごしました。西華大学では中国の伝統文化の体験をし、伝媒大学の学生の皆さんとは夜のレセプションで沢山交流をすることができ、そこでもまた人柄に惹かれました。

訪中前の私は、ニュースや SNS ですり込まれた中国に対する良くない印象を持ちながらも、実際に中国人と会話したり食事を共にしたりして交流することで、中国、そして中国人に対するイメージが良い方向に変わりました。さらに今回実際に中国を訪問して現地の人 と交流したり、美しい街並みを眺めたり食事を堪能したりすることによって、また中国に対するイメージが良いものとなりました。このことから、今回の訪中では、何事も自分の目で見て自分で実際に経験してみなければ分からないと言う学びを再確認することができました。そして、日本にも、中国にも良い面や悪い面、良い人や悪い人、それぞれあると思いますが、中国と日本の若者が手を取り合い、私が今回中国で見て経験した素晴らしい出来事を、周りの人や次の世代に伝え

ていきたいと強く思います。

さらに、私の人生にとってこの 7 日間は、非常に大きな影響を与えてくれました。毎日、各都道府県から集まった班員や他の班員と様々な話をするのがとても楽しく、気の許せる友人ができたことがとても嬉しかったです。中国に対するイメージの変化はもちろんのこと、パーソナリティの面においても大きな変化と成長をすることができた、とても感慨深い経験となった訪中でした。

最後に、この機会をくださった日中友好協会、中日友好協会の皆様、その他、私たちを様々な面でサポートしてくださった方々に深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

「訪中を通じて学んだこと」

1-A 天理大学 田中喜心

日中友好大学生訪中団を終えて考えたこと

日中友好大学生訪中団に参加し、中国各地を巡る貴重な経験をしました。同世代の中国人学生との交流、日本人メンバーとの絆、そして中国の文化に触れたことは、私にとって大きな学びと貴重な体験ばかりでした。今回の経験を通じて将来、何らかの形で日中関係に関わっていきたいという思いが強くなりました。

同世代の中国人学生との出会い

中国の大学生たちとの出会いは、想像以上に刺激的でした。中国語がまだまだできない私をサポートしてくる中国人の友達や中国の美しい文化や景色についてもっと好奇心を刺激される言い方で説明をしてくれる中国人の友達と翻訳機を使いながらですが色々な話をすることができたことで、私は自分の視野が大きく広がったと感じています。また、共通の興味を持つ仲間と語り合うことで、国際的な友情を育むことができました。

日本人メンバーとの絆今回の訪中では、日本人メンバーとの絆も深まりました。異文化を共有する中で、お互いを理解し、高め合うことができました。特に、バスの中での話し合いや交流する中国人学生の皆さんに、中国の民謡のひとつである茉莉花（ジャスミン）という歌の合唱と恋ダンスを披露するために、同じチームである 1-A の皆さんとパフォーマンスの練習をして心をあわせ、1-A という班がひとつになる事ができたと思います。それぞれの強みを活かし、協力することの大切さを学びました。

中国の文化体験

万里の長城や上海でのクルーズなど、数々の観光地を訪れ、中国の壮大な歴史と美しい自然を体感しました。特に、万里の長城ではすれ違う人々に加油と応援していただいたり、一緒に登っていた中国人の方に話しかけて連絡先を交換したりと中国語があまりできない私に対してフレンドリーに接していただき、とても暖かい気持ちになりました。他にも、中国本場の料理や伝統料理からわかる日本

とは違った食卓のマナーや食事のスタイルなどを実際に体験する事ができました。そして、茶の文化に触れたことによって新たに知ったことをひとつ紹介すると、紀元前 2700 年前には茶は薬として使われていましたが、ある日、沸騰した水に偶然茶の葉が落ち、その香りと味に魅了されたというのが飲む茶の始まりとして今回、新たに知りました。茶は淹れ方によって味が変わったり、香りや色が変わったりととても不思議で美しいものであるということを茶の文化を通じて学びました。私にとって忘れられない経験となりました。

訪中を終えて考えたこと

今回の訪中を通して、私は以下のことを深く考えさせられました。

#### グローバルな視点の重要性

世界はますますグローバル化し、異なる文化を持つ人々との交流が不可欠となっています。今回の経験は、異文化理解の重要性を改めて認識させ、グローバルな視点を持つことの大切さを教えてくれました。

#### コミュニケーションの大切さ

言葉の壁を超えて、心を通わせるためには、効果的なコミュニケーション能力が求められます。表情や行動で表現してみたり、口では伝えられなくても翻訳機を使って会話をしてみたり、お互いの国の言語を教えあったりと今回の経験は、私のコミュニケーション能力を向上させる良い機会となりました。

#### 多様性の尊重

世界には様々な文化や価値観が存在します。それらを尊重し、共存していくことが、平和な社会を築くために不可欠です。今回の訪中を通じて気づいた文化の違いは、食卓のマナーや食事のスタイル、箸の形や箸の使い方など日本とは異なる習慣の違いなどを感じました。

今回の訪中団は、私にとって人生観を変えるような貴重な経験となりました。この経験を通じて中国に留学したいと考えるようになりました。1 年生の時にこの訪中団に参加したことによって私自身が成長する機会になったと考えています。この経験をこれから繋げて、今後は、今回の経験を活かし日中友好に貢献できるような人材になりたいと考えています。

「変わらないもの」

1-A 京都大学 長嶋希武

僕が中国という国に初めて興味を持ったのはその歴史にあります。数々の業績を打ち立てた名君、国を背負って覇を競う勇猛な武将、時には権謀術数を駆使し時には人情を重んじる政治家たち…学校の授業や歴史小説・漫画などで目にする中国の歴史はどの時代もドラマに満ちていました。こうした歴史に注目するとき僕たちはとかくその変化や場所特有の存在に注目してしまいがちではないでしょうか。王朝や社会制度の変遷、画期となる出来事や戦は教科書にも大きく取り上げられ、印象深く心に残ります。一方で時代や場所によって変わらない根本的なものに価値を見出だせるのではないか、そう気づかされた一週間でした。

僕がそのように考えたのはやはり今回の訪中の過程で五感を通じて歴史に思いを馳せる機会があったからでしょう。二日目に訪れた上海博物館では陶磁器や書画、玉など様々な歴史的遺物を見学しました。それらの展示物自体に見いだされる価値はおそらく時代によって紆余曲折あったのですが、それらを美しいと感じる価値観は時代を超えて受け継がれるものではないでしょうか。だって事実こうして何百年何千年も残っているのですから。万里の長城でも同じようなことを考えました。万里の長城は春秋戦国時代に各国が築いた城を秦の始皇帝が連結したものが起源という話は有名です。現在私たちが目にできる長城はこの時代のものではなく明代に修復したものだそうです。千年も過去のものを利用し「今」に役立てるあり方はどこか感慨深いものがありました。先の時代のものを土台に新たなものを築く態度は何も物理的な建造物に限った話ではありません。伝統文化体験では中国の茶道を体験しました。講師の先生に教わったことによると、中国のお茶は唐の煎茶、宋の点茶、明の泡茶といったように飲む方法は時代によって変わりつつ、美や創造性、感情を見つけるための芸術であるという理念は脈々と受け継がれてきたものだそうです。これこそ長い歴史を持つ中国の伝統文化だなあとしみじみしました。時代を超えても根底にある理念を尊重し、そこから新たなものに発展・派生させてゆく、そんな素敵な文化の在り方に触れられて幸運でした。

ただし良いものは変えないといっても何もしなければ、一步間違えると停滞と同義になってしまいます。これは人間関係、ひいては国家間の関係でも同じだと思います。日中関係に絞るとその歴史はやはり隣国であるからか非常に長く、日本史の教科書のどの時代でも、〇〇時代の日中関係という項目があるほどです。

この長い両国間の歴史の中で変わらないものはなんでしょう。一つに学びあえる関係であるということが挙げられると思います。それは遣隋使・遣唐使から今回の訪中に至る留学等の純粋な学びである場合もあるし、お互いに反面教師となってしまう場合もあるのですが、地理的に近接し、共通点の多い文化を持つため互いの良いところを取り入れ合えることが可能という事実はこれからも変わらないと思います。また目を背けたくなる暗い過去を反省しつつ国交を結ぼうと努力する人々はこれからも変わらずいると思います。先達から受け継がれてきたその歴史の末席に今回自分も加わったことはとても誇らしく喜ばしいです。今回学んだことは自分の中でさらに発展させながら、さらに他の人に繋げていけるようにしたいと心から思いました。素晴らしい体験をする機会を提供して下さったすべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

最後にバスガイドさんの言葉を引用させていただきます。「上海は短期間で急激に発展しました。それも全てが変化する勢い입니다。唯一変化のないものは変化する事実くらいですね」中国は日本以上に変化が早いです。今回の体験をもとにこれからも中国についての知識をアップデートしていき、継続的に関わっていきたいと思います。

「訪中で学んだことと成長したこと」

1A 山梨県立大学 中野桜

今回私は日中友好協会青年代表団の一員として中国を訪問し、上海、成都、北京を中心に様々な施設や文化に触れました。実際に中国を訪れ、文化や人と触れて刺激を受けました。まず、上海では、日本とはちがう形のビルが沢山あり、驚きました。空港に到着した後、上海センタービルの見学では、曇っていましたが、上海の景色が一望でき、感動しました。高さに圧倒されながら、これほどの建物がどのようにして中国の経済発展を支えているのかを実感しました。夜には黄浦江のクルーズで、美しい夜景を楽しむことができました。見える建物は、歴史のあるものと近代的なものがあり、調和している様子が印象的でした。フォルダに収まりきれないほどの写真を撮りました。翌日は上海博物館を見学し、中国の長い歴史に触れました。展示されていた文化財はどれも貴重で、特に陶器や青銅器の技術の高さに驚かされました。これらの遺物を通じて、中国の古代文化がいかに高度なものであったかを改めて認識しました。これまで中国の歴史について習ったことがありますが、実際に見ることで感動しました。その後、成都に移動し、上海とは違った雰囲気だとバスに乗った時に思いました。成都にあるパンダ繁育研究基地を訪問しました。可愛らしいパンダを間近で見ることができ、感動しました。私は日本の動物園で並んでパンダをみた経験があるので、沢山パンダがいる状況に感動しました。午後には三星堆博物館と三星村で古代の遺跡を探索しました。ここでは、三星堆文化という中国の古代文明の謎に満ちた展示を鑑賞しました。つぎに西華大学を訪問し、現地の学生たちとの交流も行いました。ここでの学生たちとの交流は、今回の訪問で最も心に残った瞬間の一つでした。中国の学生たちは非常に親しみやすく、言語の壁を超えて一緒にゲームをしたり、動画をとったりととても楽しかったです。中国についてこれまで持っていたイメージが、西華大学生の学生さんと話すことで大きく変わり、中国に対してより親しみを感じるようになりました。この交流を通じて、すぐに打ち解け、友達になることができたことが本当に嬉しかったです。さらに、現地の学生たちの中国語に触れる中で、もっと中国語を学びたいという意欲が強まりました。彼らとの会話を通じて、言語の壁を越えてさらに深い交流ができると感じ、これを機に中国語の勉強を続けていこうと強く決意しました。実際に中国に足を運んだことで、文化や社会、そして人々に対する理解が深まり、中国という国に対する見方も大きく変わりました。その後、北京に移動し、

7日から8日にかけての文化体験や観光では、万里の長城や故宮博物院といった歴史的な名所を訪れました。特に万里の長城では、教科書で見えていたものが現実にあって、感動しました。想像の何倍も階段をのぼるのが辛くて、次はロープウェイに乗って登りたいとおもいました。また、故宮博物院では、明・清王朝の皇帝たちが住んでいた場所を実際に見ることができ、その豪華さや歴史の重みを実感しました。歴史的な衣装を着ている人が沢山いて、それがとても可愛かったです。また団長が、時代によっての衣装の違いを教えて

下さって勉強になりました。最後に訪問した羅紅美術館では、現代美術作品を楽しむことができ、中国の伝統文化と現代アートの融合を感じることができました。この訪問を通じて、中国の多様な文化や歴史、そして現代社会の発展を直接体験することができ、非常に有意義な学びとなりました。



「自ら行動していくこと」

1-A 山梨県立大学 中山璃子

私は今回、中国に訪問する前は中国に対して様々な先入観を持っていたと感じます。私は訪問する前に友人に中国に行くことを伝えると、「どうしてわざわざ中国に行くの?」と肯定的ではない返答が来たこともありました。また、それを聞いて私自身も少し不安を感じてしまいました。しかし、今回の訪問を思い返してみると、良い思い出、良い出会いばかりで、自分の体験したことすべてが、これまでの私の先入観を変え、大切な思い出となりました。

今回の中国への訪問で私が1番に感じたことは、私たちは「変わらない」ということです。学生との交流会では、私たちと同じように大学で勉強をしたり、友達とカフェに行ったり、アイドルやアニメの話で盛り上がりがあったり、自分の将来の進路に迷ったりと、私たち日本の学生と同じように生活をする学生の姿を知ることができました。日本と中国では文化も話す言語も違いますが、中国の学生と様々な話をして学生同士の楽しみや悩みを共感しながら心を通じあえたことがとても嬉しかったです。また、万里の長城、故宮博物院、上海博物館などを訪れたこと、中国伝統文化体験で茶道体験ができたことがとても印象に残っています。中国の歴史が深いということは知っていましたが、学校の講義で習う程度で、漠然としたものしか理解していなかったため、今回の訪問で歴史や迫力を肌で感じ、中国の大きなエネルギーを実感することができてよかったです。日本に少し似ているところがあったり、中国特有の道路の様子など中国の文化や歴史を学んだこと、街の様子などから中国をより身近に感じることができました。

今回の中国への訪問を通して、互いの国や文化に興味を持ち、知ろうとする気持ちやお互いの文化を尊重する気持ちなど歩み寄っていく姿勢が大切なのだということを学ぶことができました。私の周りの友人がそうであったように日本で中国についてよく理解している学生はまだ少ないと感じます。そのため、まずは私が今回の訪問で見たこと、感じたこと、出会った人々の温かさを周囲に伝えていくことが大切であると強く感じました。また、中国を訪れる前に私が感じたように、中国についてよく知らないということが不安の1つの要素になっているのだと思いました。住む環境や国籍が違うということ、また、メディアや SNS などの偏った情報から勝手なイメージを作り上げ、判断してしまっていたのだと気がつきました。そのため、理解を深めていくためには、自分から行動し、知ろうとする姿勢が大切だと思います。今回参加しなければ知ることができなかったこと、訪れることができなかった場所、会うことのできなかつた人々、すべてが私を成長させてくれたと感じます。また、勇気をもって話しかけたり、言葉がすべて通じなくても、コミュニケーションを取ろうとする気持ちや自分から行動していくことで、新たな発見や学びを得ることができるのだと強く感じた 1 週間でした。また、このような姿勢は今回一緒に中国に行ったグループのみんなや交流をした学生から学んだ姿勢でもあります。今回の訪中がこんなにも充実したものになったのは、日中友好協会の皆さん、私た

ちを暖かく迎え入れてくださった中国の皆さん、そして一緒に楽しい思い出を作ってくれた 1A のみんなのおかげです。このような経験ができたことは私にとって大きな財産となりました。本当にありがとうございました。

## 「中国の印象と日中友好の今後について」

### 1-A 信州大学 西原大騎

私は中国に行く前から特に中国に対して特別悪い印象を持ってはいなかったのですが、おばあちゃんや周りの友達に中国に行くと言ったときは『大丈夫?』と心配されたことを覚えています。中国の日本人のイメージは極端に悪いわけではないのかもしれませんが、まだまだマイナスの印象が残っていると感じました。実際に中国を訪れて最初に感じたのは、想像以上に美しい場所であるということです。上海、北京、成都を訪れましたが道が汚れていたり、路上でホームレスの方を見かけることも全くありませんでした。建物も非常に綺麗で、西洋風の建築が多い印象を受けました。また、経済的に発展している都市であるためか上海の黄浦江クルーズに乗って見た上海の夜景はもう一度中国に行ったら絶対に見たいと思えるほど本当に素晴らしい景色でした。建ち並ぶ高層ビルが全て光り輝いており、この高層ビル群のライトアップは上海が経済的に発展している都市であることを示すシンボルとしての役割を果たしているのだと感じました。次に北京では万里の長城や故宮を訪れて中国のスケールの大きさを感じました。まず万里の長城は滞在時間が約1時間しかなかったのですが、とりあえず一番上まで登ってみたいという思いから早足で行けるところまで登ってすぐに降りてきました。実際に登ってみた感想として気分は山登りと同じ感覚だったのですが、これを人が造ったのだと考えると本当にとんでもないことだと実感しました。次に故宮では皇帝が政治を行うための建物や普段生活していた場所などを見学しました。ガイドさんが教えてくれるながらの観光だったのですが、皇帝が通る道の装飾は龍が使われていたり、建物の屋根の像の数が皇帝が住んでいた場所は9個で皇后が住んでいた場所は8個であるなど細かいところで様々な工夫がなされていることが分かり、本当に色々なことを考えながら建設されたものなのだと思い知らされました。その他中国の観光を通して驚いたこととしては、現金が使える場所がほとんどないということです。ショッピングモール内のお店だけでなくガチャガチャや自動販売機までほとんどすべてがWechatPayやアリペイの支払いのみとなっていました。このことは日本に来ている交換留学生の子から事前に聞いていたことだったのですが、頭の中では理解していたものの、どこかで信じられず実際に訪れてみてとても大きなカルチャーショックを受けました。私はこのような中国での体験を通して、実際に自分の目で見て体感することの大切さを本当に実感させられました。今の時代ネットを使えばある程度動画や画像で様々なことを知ることはできますが、画面越しに見たものは実際に見て感じることに以上のことは感じられないと今では思います。また、中国での体験を通して今後日本と隣国の中国が友好的な関係を築くためには今回のような訪中国で若者が中国に実際に訪れてみるということが重要だと考えます。その理由としては実際に中国に行かない若者が多いままだと中国についての考えがメディアやインフルエンサーによって形作られたイメージに偏ってしま

うのではないかと考えています。中国に対してどう考えるかを今の若い世代の人たちが実際に中国を訪れて感じたものを通して伝えていくことがよりよい日中関係に繋がっていくのではないかと考えています。

「初めて海外の土地を踏みしめて」

## 1-A 大阪大学野中奏

私はこれまでの人生で海外に行ったことがなく、そもそも飛行機に乗ったことすらなかった。今回の訪中団は私にとって初めて異国の地へ行く機会であり、何もかもが初めてのことに溢れた貴重な経験を得ることができた。私がこの訪中団を通じて大きく印象に残ったことは3つある。

まず1つ目は、異国の地で感じる独特の空気感だ。周りの人がみな日本人ではなく中国人だというのはかなり不思議な経験だった。周りでずっと飛び交うのはもちろん中国語だし、顔立ちも日本人とはまた少し違うし雰囲気も違う。日本で外国人観光客などを見かける時はなんとも思っていなかったが、逆に自分が彼らの立場になると私の場合は少し不安を感じた。自分が明るい髪色をしているからかは分からないが、かなりじっと目を合わせたまま見つめられることも多かった。日本人は、何か気になることがあっても他人をずっと見つめはせずチラチラと見る程度だと思うから、これもまた文化というか国の違いなのかと感じた。あとよく言われていることだが、日本は接客がかなり丁寧な国だと思う。しかし中国ではいくつかのお店で、決して態度が横暴だったとは言わないが全く笑顔がない人もわりと見た。不快に感じた経験というより、文化の違いを身をもって体験できて感動した。

そして2つ目は、食の違いだ。日本と中国との食の違いではなく、中国内の食の違いにかなり驚いた。今回上海と四川、北京の三都市を回ったがひとつに中華料理といっても、出てくる料理の種類や味が全く異なりとても興味深かった。上海は少し油が多めに使われており、海が近いので魚料理もかなり多く出てきた。味付けはそんなに濃くなく、油を感じるものが多かった。一方四川は、香辛料をふんだんに使った辛めの味付けが多く、油っこさはあまり感じなかった。旨みのある辛さで私は1番四川料理が美味しいと感じた。北京は、油っこくもなく特別辛いというわけでもなくとても食べやすい味だった。日本で食べるいわゆる「中華料理」の味に1番近いと感じた。四川と北京では魚料理はあまりなかった。それぞれの土地で共通して食べたのが炒飯だったと思うが、同じ料理でも味付けが全然異なり、北京の炒飯が1番私は美味しいと感じた。日本料理でも、味噌汁やお雑煮などなど地域によって味が異なるも

のがあるが、中華料理はなぜかどこで食べてもほぼ同じだろうというイメージがあった。しかし今回3

都市を回って美味しい料理をたくさん食べて、地域ごとの特色を直接感じる事が出来た。

最後に3つ目は、自分の中国に対するイメージの変化だ。私はこれまで正直中国に対してそこまで

いいイメージは持っていなかった。気が強い人が多いと思っていたし、テレビなどで見る非常識な行動をする人ばかりだと思っていた。しかし、どこの国に対しても言えることだが優しい人もいればそうでない人もいて、みながみな私の思うような人ではないということを今回の訪中団で実感した。万里の長城を登っていた時、すれ違う人々が日本語で話しかけてくれたり、こちらが「加油！」と言ったら笑顔で答えてくれたり、一緒に写真を撮ってくれる人までいた。大学生交流の時も、積極的に話しかけてくれたり日本について知りたいと言ってくれたりして、とても嬉しかった。かなり中国の方に対するイメージがよい方向へ変わった。

今回の訪中団を通じて、文字通り私が知らない世界があることを実感することができた。これからも中国という国に対してもっと知りたいと感じさせられる体験をできたので、これからより中国について知識を蓄えるだけでなく直接訪れて体感したい。

「訪中を通して感じた、二国間関係の見方に関する今後の指針」

1-A 大阪大学 平林大季

まず、今回の第二陣訪中団に際してご尽力いただいた、佐々木団長を始めとする日中友好協会の皆さま、付博さんを始めとする中日友好協会の皆さま、その他関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の訪中は、私にとって初めての中国訪問であり、今後の人生に大きな影響を与えたと考えています。

訪中以前、私の中国に対するイメージは、良くも悪くもない「普通」であり、あえて言えば「少し悪い」程度であったと記憶しています。大学で中国関連の専攻をしている自分にとって、関わりを持つ中国人は留学生や大学講師が主ですが、彼らは聡明で向上心があり、優しく、多くの日本人が薄ら持つ「中国人のイメージ」とはかけ離れています。これが「良くも悪くもない」の「良い」部分でしょう。

一方、現在日中関係は低空飛行の状態です。双方、国民感情の悪化に歯止めがかからず、歴史、主権、安全保障、国家安全を巡る日本人拘束など、問題は山積しています。周囲の日本人が薄ら持つ中国に対するネガティブなイメージや、インターネットで散見される中国に対するネガティブな投稿を日々見聞きして、私も中国に対する警戒心を強めていた節があり、これが「良くも悪くもない」の「悪い」部分であると言えます。

私は、外国語学部に所属している自身の特性上、様々なアイデンティティを持つ人たちと接しており、だからこそ、他の人よりも「日々見聞きする特定の集団や民族、国家に対するネガティブなイメージは一面的であり、特定の集団や国家を代表しないこと、そして、その情報自体が作為的で、発信者にとって有利なように改変、誇張されている可能性も十分にあること」を日々意識して情報を取捨選択してきたつもりでした。しかし、そのように意識をしても、無意識のうちに「中国に対する偏見」を強めていたと、この訪中を通して強く自覚をしました。

そう思わせてくれたのは、今回の訪中を通して出会った沢山の現地の人たちとの交流です。言うまでもなく、今回のプログラムで交流を深めた西華大学、中国伝媒大学の学生は向上心に満ち溢れており、皆温和で積極的に話しかけてくれました。何人かの学生は、日本に帰った今でも微信で連絡を取り合うほどに仲良くなりました。

しかし、私にとってよりインパクトがあったのは、訪中団で出会った人々ではなく、一般の中国人との会話です。ホテルやレストランの従業員は、困った時に親身になって話を聞いてくださり、できる最大限のサポートをしてくださいました。また、利害関係のない、道端で出会った中国人は、皆私に興味津々で、お互いの国のことを積極的に情報交換し、また私が困っている時は周りの人も巻き込んで助けてくださいました。そこに、私が懸念していた「一般の中国人の持つ反日感情」はなかったのです。

このことから、私はこの感想文のタイトルにも繋がる重要な示唆を2つ得ました。

一つ目は、やはり気をつけていても人は特定の集団や民族、国家に対するバイアスを持ってしまう、ということです。今回の訪中では、自分がそうなってしまっていたことに強く気付かされました。だからこそ、二国間関係を語る際には、今回の訪中のように積極的に一次情報を入手し、多角的かつ複合的に物事を捉える必要があると感じました。

しかし、ここで重要になるのは、今回の訪中で感じた中国に対する良いイメージだけを優先しないことだとも考えています。今回得た良い印象だけを盲目的に信頼し、日中関係における中国の良くない面を無視することは、ベクトルが変わっただけで考え方自体は訪中前と変わらないからです。今回の訪中で見た中国の姿もあくまで思考の一材料であり、政治レベル/民間レベルを問わず、「良くないものは良くない」と言えることこそが、真に日中友好を担う若者として正しい姿勢であると私は考えています。

二つ目は、二国間関係が冷え込んでいる中でも、民間レベルの交流を積極的に推し進めていくべきであり、我々一般人でも十分にその関係に寄与できる部分がある、ということです。訪中前は、民間の交流が持つ意義を理解しきれておらず、私のような一般人の力が国家間の関係に与えるインパクトは小さいと考えていました。

しかし、今回の訪中では沢山の中国人と知り合い、意見を交換し、お互いの国のことを学び、将来の再会を約束しました。若者である彼らと我々には、今後、ビジネスにおいても、文化的交流においても、或いはまだ想像もしていないような機会においても、重要なポジションを担う未来があると確信させてくれる深い交流がありました。そして、今回の訪中で得た学びや経験を、私が家族や友人、クラスメートに共有しているように、きっと彼らもそうしているでしょう。そういった「雪解け」は、今は小さくてもいつか大きくなり、日中友好に必ず寄与すると、私は信じています。

未筆ですが、訪中団関係者の皆さまに重ねて御礼申し上げるとともに、今後の訪中団事業のますますのご発展をお祈りしております。



「初めての訪中で感じ学び得たもの」

1-A 長野県立大学 藤澤亜弥音

私はこの訪中団の参加により初めて中国を訪れました。そもそも海外に行った経験は1回しかなかったため、今回で2度目となる海外渡航を非常に楽しみにしていました。そして日本で生活していると感じることをできない感覚や文化を肌で感じることを目的として参加しました。

そもそもこの訪中団を知ったきっかけは、大学の選択課目の中国語を履修した時の先生からのお誘いでした。さらに中国に興味をもったのは授業の中で、中国勉強会での中国伝媒大学からお越しくくださった夏丹先生との出会いでした。夏丹先生の笑顔で優しい姿や中国についての紹介を受けて、ぜひ私も中国に行ってみようと思いました。今回の上海、四川、北京を訪問できるだけでなく全国の学生交流も行えるという構成が非常に魅力的でした。それに加えて、個人での金銭負担が少ない中で多くの充実した中国文化体験ができること、日中交流という貴重な体験ができることに期待していました。

今回の訪中で私が最も印象的だった環境面について述べていこうと思います。

まず、最も日本との違いを実感したのが、トイレです。日本ではどこへ行ってもトイレトペーパーを流すことができるし、トイレトペーパーがないことはほとんどない。或いは切れていたとしても補充は必ず用意されています。また、不潔だと感じることはほとんどないです。それに対して、中国ではトイレトペーパーを流すことができない、またトイレトペーパーがないため自分のティッシュペーパーを使う場面が多々ありました。和式トイレが多く、日本に比べて清潔さを保たれているところは少なく感じました。衛生面や機能面で世界の最先端をリードしている日本のトイレを当たり前のように利用し慣れてしまっていた私は違いを大きく実感しました。

次に、交通道路でも日本との違いを感じました。特に北京市に着いたとき、道路の広大さに衝撃を受けた。日本ではあまり見ないほどの車線数が多く、土日や夕方に見られた先が見えないほど車の渋滞にも衝撃を受けました。車間距離が狭くオートバイや自転車が車スレスレを走っており、事故が起きないかヒヤヒヤする場面が多かったのです。交通道路で最も中国の人口規模の大きさを実感しました。

このような環境面が日本と大きく違ったことが、非常に衝撃を受け、新鮮味を感じることができた。交流した学生や街の人々や店員さんなど関わった人々は、私たち日本人を温かく受け入れてくれてとても優しくかったです。

今回訪中を終えて、私は今まで知らなかった中国の文化や環境、人々について多く学ぶことができました。実際に訪れなければわからなかった、良い面やより改善できると思った点も多くありました。そこから、その地に足を踏み入れて体感することはネットや本で調べるよりはるかに多くのことを吸収することができることを知り、訪中の大切さに気づかされました。1週間という短く限られた時間の中でしたが、1日1日が刺激的で充実したスケジュール

だったので思い出として深く刻まれました。そして私はこの訪中団でより中国に関心を持ったので、まずは中国語を習得したいと思いました。大学での講義やセミナーを利用して、一生懸命中国語を勉強したいと思います。今度中国に行く機会があった際には、中国語を話せるようになり、より中国について知識を蓄えていきたいです。

私の中国へのイメージが訪中により良い印象に変わったように、中国へ行ったことがない人々にも私の中国で見たもの、感じた経験を伝え、知ってもらえるように努めていきたいです。

## 「中国で学び得た視点」

### 1-A 明治学院大学 村石晴亮

今回の訪中を経て、私は中国に対する印象が大きく変わりました。訪中前は、戦争や領土問題などの歴史的背景から、中国に対して正直なところマイナスの偏見を抱いていました。さらに、近年メディアによる偏向報道を目にすることもあり、出発前には訪中することに対する不安も大きかったです。しかし、実際に中国を訪れてみると、そうした先入観は大きく覆されました。

まず、中国人に対する印象が大きく変わりました。日本にいるとき、私は中国人を自己優先的な人々だと勝手に誤解していました。しかし、実際に北京のスーパーを訪れた際、私たち訪中団と地元の人々でレジの列が非常に長くなってしまいました。そのとき、前にいた地元の女性が言葉が通じない中でも、ジェスチャーを使って私たちに先に会計を譲ってくれたのです。その親切な行動に、私はとても心温まる思いを抱きました。また、産業面や経済面でも中国は日本を圧倒的に上回っていると感じました。上海や北京の都心部は、東京の主要なビル群よりもはるかに高く、建築デザインも現代的でありながら上品さを兼ね備えていて、非常に印象的でした。日本では、中国製品に対して「メイド・イン・チャイナ」と揶揄する人も一定数いますが、今回の経験を通じて、私はそうした偏見を持つ人々にこの経験を伝えていきたいと思います。

この訪中を通して、私は中国に限らず、今まで抱いていた先入観や偏見は、あくまで氷山の一角に過ぎないと気づかされました。人口が多い中国において、たった一人の行動や発言を国全体のものとして捉えるのは好ましくない考え方だと思います。この思考の気づきは今回の訪問の中で非常に大切なものだと思います。

そして、今後の日中友好関係は、我々若者が築いていくべきものだと強く感じました。近年、「新しい戦前」とも言われるように、ウクライナ情勢やパレスチナ問題など、世界の情勢がますます不安定になっています。そうした中で、隣国同士である日本と中国の関係は、歴史的な流れから見ても、世界の平和と安定に大きな影響を与えていると思います。これからの時代、両国がお互いを理解し、協力し合うことは不可欠です。そのためには、我々若者が先入観や偏見を取り払い、積極的に対話を行うことが重要だと感じます。文化や価値観の違いを尊重し、誤解を解消することこそが、真の友好関係を築くための第一歩です。私たち若い世代が未来に向けて新しい架け橋となり、日中の友好関係を強化することで、世界全体の平和と繁栄に貢献できるはずです。私自身もこの訪中経験を生かし、未来のために貢献していきたいと思います。中国で実際に見て聞いた経験を大切にして、今後の人生をより良い方向に進んでいけるよう頑張っていきたいと思います。

「実際に経験するからこそわかること」

1—A 神田外語大学 渡邊早紀

私は大学で中国語を専攻しており、中国語だけでなく中国の文化などを学んでいく上でいつか実際に中国へ行ってみたいという強い思いがあり、今回訪中団に応募することを決めました。しかしその反面中国へ行くということに少し不安を感じる部分もありました。以前中国人の方に「日本で流れている中国のニュースはひどいものばかり？」と聞かれたことがあります。それに対し私は「そんなこともない」というような濁した返事をしました。ですがその質問を受け、日本で流れる中国のニュースは反日を連想させるものが多いのではないかと改めて考えさせられました。やはり日本にいて入ってくる中国の情報には日本製品不買運動や福島処理水放出問題、日本の浴衣を着ただけで連行されるといった反日を感じさせるようなものが多くあったからです。しかし今回の訪中団を通し実際に中国を目で見て、交流することで元々あったイメージと重なる部分、さらに新たな発見が得られた部分がありました。

現地で印象に残ったことの一つにやはり中国の発展が挙げられます。私たちははじめの一日で上海の昼と夜の景色を目にしたのですが、特に夜の景観からは中国という国の発展を目の当たりにしているかのようなきらびやかさを目にしました。北京を訪れた際にもデザイン性のある大きなビル、広い道路、レンタル電動自転車の多さに驚かされました。その中で面白いと感じたのがデリバリーサービスの配達員の多さで、日本よりもデリバリーサービスが重要な存在なのだと感じました。また文化の違いという点では「食事を残す」「列に並ばない」というよく聞く文化があると思います。中国の方から食事を残すのは文化だから気にしないで良いと聞いたことがあります。しかし最初の方は残すことに抵抗感がありましたが文化を理解する良い機会になりました。後者の「列に並ばない」という文化に関しては実際そこまで人を抜かしたりはしないだろうと考えていたのですが、この文化もほんの一部ですがしっかり目にすることができました。

今回訪中団に参加して自分的に特に良い体験だったと思うのはやはり中国現地の方との交流です。この一週間で中国の方の優しさにたくさん触れることができ、中国の人々の印象が大きく変わりました。西華大学を訪れ現地の学生達と交流を行った際には現地の学生がゲームを考えてくれていて、日本語で一生懸命説明をしてくれました。お話をした際に日本の文化が好きだといってくれたことは嬉しい限りでした。またバスへ移動する際に日傘を指していない私たちに「私は傘を持っているから入れてあげる」とどこからともなく学生が傘に入れてくださいました。話を聞くと日本語学科の学生ではなかったものの知っている日本語を頑張って話してくれたりたくさんの優しさに触れ

ることができました。西華大学・伝媒大学のどちらの学生とも wechat を交換することができ日本に帰ってからも交流があるため、この縁を大事にしようと思います。また街で出会った一般の方々も笑顔で接して下さり、レストランやカフェの店員さんも仰々しさがあまりない分日本よりとてもフレンドリーだと感じる場面が多くありました。

中国は日本とは切っても切れない関係にあるにも関わらず未だ中国語を学んでいることや、中国という国に対してあまり理解がない人はまだまだ多くいます。実際私自身もステレオタイプに囚われていた1人だったと思います。しかし今回中国を訪れて中国の文化や歴史、人々との交流を経て、自らの目で見えて経験することがそのものの理解を深める一番重要なことだと改めて感じました。このような貴重な経験をした私たちだからこそ中国を知らない人に伝えられる言葉があると考えています。今回の訪中を通し、現在中国語を学ぶ上で将来は何らかの形で日中友好の架け橋になりたいとより強く思うようになったため中国への興味関心、中国語の能力をさらに高めていきたいと思います。そして中国を訪れたこと以外にもさまざまな地域の異なる学年の日本の学生と交流ができたという部分も非常に貴重な経験だったと振り返ります。

最後に豪華な食事や立派なホテル、個人の旅行では訪れることができないほどさまざまな場所に行けたこと、そして無事に帰ってこられたこと、今回の訪中団に関わってくださった全ての方々のおかげで非常に楽しく安全な訪中をすることができました、本当にありがとうございました。